会報
大学生協友の会
2021年9月１日
第31号
発行：大学生協友の会

〒166-8352　東京都杉並区和田 3-30-22　全国大学生協連役員室　TEL 03-5307-1111
E-mall:　unicoop@univcoop.or.jp　ホームページ　https://unico.itigo.jp/

2021年度第29回大学生協友の会総会開催報告

去る２０２１年７月３日（土）、新型コロナウイルス感染拡大が続く中、大学友の会総会は、杉並会館での開催を断念し、初めてＺｏｏｍによるオンラインと杉並会館５階ダイニングルーム会場を繋ぐ形態に変更し、オンライン参加を含めて２９名が参加して開催された

総会は、幹事会推薦の議長として柴田信廣幹事を選出した。伊野瀬十三幹事長からの提起でこの間の物故者の逝去を悼み黙祷を捧げたあと、総会参加者への挨拶があった。

大久保事務局長が２０年活動報告と決算及び２１年活動計画と予算を提案し、和知会計監査が会計監査所見を報告し、異議なく了承された。

その後役員改選を行い、川上邦博さん、古畑志津子さん、有田祥子さん、隈部なおみさんが退任され、新たに茂垣薫さん、和久井洋一さん、齋藤淑人さんが新任された。

また総会では、４月幹事会以降取り組まれた「大学生協東京ブロック応援募金」が、６月２８日現在９４件１４４万５千円となったことが報告された。

その後、総会特別企画として「大学生協の再生に向けた取り組みについて～ＯＢ・ＯＧとしての応援活動の推進のために～」をテーマに大学生協連専務理事 中森一朗氏から「コロナ禍における大学生協の状況」、大学生協事業連専務理事樽井美樹子氏から「２０２１年度新学期総括と今後に向けて」の報告を頂いた。

中森専務理事報告では、２０２０年度会員生協計が経常損益で▲２０億円、事業連合が▲１８億円、中四国事業連が▲２億円の欠損であり、２０２１年度予算も▲３５億円しか計上できず、予算達成したとして累積赤字はそのまま積み上がること、新学期（３～４月）は供給、事業剰余ベース１９年対比で８０％前後に止まったことなどの報告があった。以上の状況を踏まえて、大学生協の再生を展望し、①引き続き「危機的な状況」にあること、②キャンパス環境は「元には戻らない」「劇的に変化する」ことを想定し、③再生のための事業基盤の構築として「学生総合共済のコープ共済連の事業譲渡」による残余資産の会員生協への配分を含めた検討などについて紹介された。

樽井美樹子専務理事報告では、２０２１年新学期（５月末）状況として、２０年対比で供給、供給剰余は２０％前後伸長し、費用を３０％減でも事業剰余は予算比に▲１８％（３億８千万円）であること、新学期の特徴として、生協加入は２％弱の増、共済加入は２％強の減少、ＰＣ・電子辞書供給の未達成、ＰＣ講座、公務員講座の計画達成などの報告があった。会員生協の様々なとりくみに貢献できる事業連合の機能を整備し、事業連帯のいっそうの強化・発展をめざす決意であることが紹介された。

その後質疑応答を行い、幹事長がまとめを行い閉会した。

予告
12月の友の会会員親睦会

予定日時：二〇二一年12月4日（土）
午後2時30分から午後4時まで
会場　：杉並会館会館
親睦会開催の可否はコロナウィルスの感染状況によって判断されます。
※詳細は別途ご連絡いたします。
尚、同日13時～14時は第1回幹事会を予定しています。

私と大学生協

1960年前後と70年前後の二つの時代（2）

―インタビュー・斎藤嘉璋―

新左翼系の諸潮流が大学生協にも影響を持ち始めた時であり、その国際情勢から始まる論議は議長を悩ました。共同議長の東北大生協の浅井康男君（のち東京都連会長）とはお互いの郷里が佐渡であることを知り「早く論議を打ち切って佐渡に帰ろう」と話していたが、杉本専務に代わって初登板の田中尚四専務はまじめに対応、主要テーマの「生協設立支援と法人化促進」などを決定した。

生協設立活動への支援

大学生協連の東京地連担当としてのこの時期の大きな課題は、各大学の生協設立の動きに対する支援だった。最初が明治大学への支援で、５８年の夏、自治会委員長だった中村幸安君からの要請を受けて、早大生協の学生らが神田駿河台の学園際の期間、生協設立をアピールするテントに１０円牛乳を運び、支援した。設立された明大生協からは業務責任者の派遣要請が出され、東大生協から藤川一栄さんが派遣され、続いて数人の職員も派遣された。しかし、数年後にはブンド系だった明大の学生運動の影響のもとで理事会に藤川さんたちを追い出す動きが出た。東大生協との人事契約は私名義になっておりあわてたが、そんなところにいるのはもったいないと転身していただいた。一方の中村君は多摩ニュータウン生協を設立し、関西の千里生協などとともに新左翼系の地域生協の東京のリーダーの一人とになっていく。その後、明大生協では過激派内の争いで職員の殺傷事件などがあり、大学当局に解散させられるといった事態となった。裏切られた気持ちである。

次に明治学院生協を支援した。ここにも東大生協から上條直保さん（のち飯田生協専務理事）を派遣してもらったが、上条さんから学生理事のなり手がいないと言われて、当時明治学院の学生だった弟を説得し理事になってもらった。その後、弟の友人であった新田君が専務理事となり「弟さんは私に生協を押し付けていなくなった」と言われた。女子大ではお茶大生協設立を支援した。お茶大には板橋の大山寮に生協があり、寮委員会の人たちと本校の生協設立を進めるために寮に行ってあれこれ協議した。男性は父兄でも門限があり、門限に退出しなければならなった。しかし、つい遅くなった私を彼女達は裏の垣根からの抜け道をくぐって帰るよう対応してくれた。

生協設立に伴う人事派遣の要請には東大生協理事の田中尚四さんの奥さん・田中君代さんがお茶大の卒業生でもあるということで派遣されることとなった。女子大ではお茶大の設立支援は東大生協が担当で、早大生協の学生は近くの日本女子大や学習院女子部などに働きかけをした。東京学芸大の場合は業者食堂を生協化するという取り組みで、早大生協の食堂部が応援して成功させた。東経大生協の設立もこの頃で、東経大の場合は卒業生の萩原さんが出版社にいた経験を活かし書籍部を中心に軌道に乗せた。それから東工大、水愛、産大、芝工大、女子美などの生協設立や設立後の支援もこの頃だった。女子美の設立リーダーの彼氏が全学連委員長になったことから大学生協連からの支援を拒否し、頓挫したといったこともあった。

この頃の大学生協連の連帯活動としての人事派遣として忘れられないのは伊勢湾台風（５９年９月）で被害をうけ、東山地区へのキャンパス統合に伴う施設運営を抱えていた名古屋大学生協の支援要請をうけて、東北大生協の坂田泰司さんを派遣したことがある。これは地連の枠組みを越えた地連間連帯と人事支援と人事交流の第１号となった。

大学生協連の５９年の大きな出来事としては杉本専務が労金協会に行くことになり、後任問題が起きたことがある。杉本さんは塚崎さんや森定さんと相談したらしく「東大生協の田中君を説得したいから同行せよ」と言い、一緒に彼の下宿に向かった。私より一つ年上の田中さんは大学院生として学究の道に入っており、その話には同席した奥さん＝院生生活をあきらめてお茶大生協の責任者になった奥さんが「あなたまで・・・」と難色を示された。当時の大学生協連は貧乏で専務と事務局の二人の給料も遅欠配が常態化していたが、全国事業委員会が発足して独自開発の大学ノートが発売されるなどして「これで杉本の給料もなんとかなるか」と島根委員長が話していた時期である。法人化し会員生協も増えつつあり、全国連帯事業も始まってはいたが、課題山積みの連合会を田中

さんが引き受け、大学生協は６０年代の発展期に入っていった。

学生時代に大学生協連常任理事として東協連や日本生協連の行事や会合に参加し、生協の先輩たちの言動に接しているうちに卒業後も生協運動なるものに関わり続けてもいいかな？と考えるようになった。

１９６９年の２月２６日、日本生協連は小売商業特別措置法による生協規制に反対し、雪の降るなか国会前にテント張って座り込むという行動をとり、それに参加して先輩たちの生協運動への情熱と行動に動かされ、生協に残ろうと決意した。

私の“２・２６事件”だった。翌６０年の２月、日本生協連の試験を受けたが当時の日本生協連は貧乏団体で「６月の総会で年度予算を決定するまで採用はできない」と云われ、卒論を引っ込めて留年し、安保闘争などに明け暮れることになった。６月の日本生協連総会では無事に年度予算が可決されたのを見届け、総会参加者とともに国会に向け安保反対の請願デモに加わった。８月には大学生協連の総会が早大で開催され、日本生協連から休暇をもらってその総会議長を務めた。一緒に議長を務めたのが東北大生協の学生理事・浅井康男さんであり、はじめてお互いが佐渡出身と知り驚いたが、彼とはその後ながいお付き合いをすることとなった。

１０年ぶり大学生協に復帰
～大学紛争の混乱の中で～

６８年末に日本生協連は首都圏大生協構想の実現のため、東京地連の事務局長であった塚崎さんを東京生協の実務責任者として派遣を要請し、後任に早大生協専務理事の森定さんが指名されたことに伴い、私が６９年１月にその後任候補として早大生協に赴任することになった。日本生協連からの「４年間出向契約」の人事だった。

当時は、６８年以降の東大闘争、６９年東大入試中止の余波をうけて、早大も卒業式、入学式が混乱し、ロックアウト・休校など続いており、大変な時期に戻ってきたという思いだった。「明日はロックアウトされるが営業はどうするか」といった状況が続く中で、松戸からでは対応ができないと西武線沿線に家族で引っ越すなど個人的にもバタバタが続いた。事業経営も大変で、労組の一時金要求に「ないものは出せない」と頑張り、日生協時代に労組の幹部で早大生協労組の皆さんとも生協労連でなじみだったので「裏切者」と呼ばれながら協力をしていただいた。一方、大学立法反対のために生協は教職員組合とともに理事会・労組が早大七者協に参加、反対運動に取り組んだ。

７０年に入るとようやく授業などが正常化されたが、７１年には革マル派が「生協をよくする会」などを名乗り、総代選挙に立候補するなど介入をつよめたため、通常業務以外の対応が求められた。

その頃から、過激派セクト間の暴力沙汰が頻発し、早稲田の革マル派と法政の中核派の対立が激しく、法政の中核派が丁度大隈横丁食堂の傍にあった早稲田新聞会（革マル派）を襲撃するつもりが、誤って生協倉庫を襲撃し、投石などテレビなどを破壊するという事件があった。革マル派は珍しく生協に謝罪にきた。

施設問題としては、７０年３月、都の道路拡張計画に伴う大隈横丁食堂（５０坪）のグランド坂上（現２９号館）への移転が決定し、７１年１月に新食堂（１２８坪をオープンした。

このグランド坂食堂の東側は、柔道部などの体育館がある位で５００坪ほどの空き地になっていた。狭い建物に食堂をつくるよりこんなに広い土地があるじゃないかという感想を皆もつこととなった。これをきっかけに、本校キャンパスおいて、貧困な施設環境を改善するために、大食堂を含む５００坪厚生センター建設要望を７２年５月総代会に提案し、６月村井総長懇談などを通じて要望し、８月に「本校厚生センターの建設について」のパンフを作成配布した。

地域生協設立支援、人事派遣など東京生協設立を支援するために大学生協に戻ってきたという経緯もあって、専務就任早々に職員に訴え、手を挙げた４名を東京生協に派遣した。６９年１０月開店にむけて、派遣先の担当業務の肉や魚などの調理訓練などの事前訓練にも協力した。一方で６９年に東京都連から戸山ハイツ生協への支援要請がだされ、それへの対応も進めて、７０年には東京事業連合への加入とともに戸山ハイツ生協支援のために総代会を開催した。その頃、東京地連では森定さんを中心に地域対策委員会などを通じて論議し、法政生協が桐ヶ丘団地、早大生協が戸山ハイツなどへの支援活動をすすめ、東経大生協などの多摩地区の新設生協支援についても推進していた。

【この続きは次号掲載予定です】

大学生協友の会への近況報告

人生１００年をどう生きるか

２０２１年８月１５日　小塚和行

私は、本年３月３１日に公益財団法人生協総合研究所を退職いたしました。２０１５年５月にコープ共済連を定年退職し、生協総研で約６年間嘱託職員として研究員の仕事をしてきました。生協人生５０年の最後に生協総研で仕事をすることができたのは大変ありがたく光栄なことでした。

生協人生５０年を振り返り、これから人生１００年に向けて何をしていくか、今考えていることや取り組んでいることを少しお話しします。友の会の皆さんに、何か通じるものや参考になることがあれば幸いです。

1. 生協人生50年

私の生協人生の５０年間をふりかえると、「大学生協時代（1971～2000年）」「ＣＯ・ＯＰ共済時代（2000～2015年）」「生協総研時代（2015～2021年）」の３期に分けることができます。

第Ⅰ期　大学生協時代

①学生時代
（1971年４月～1976年３月）

②京大生協職員時代
（1976年４月～1994年９月）

③大学生協連時代
（1994年９月～1998年４月）

④京都事業連合時代
（1998年４月～2000年10月）

第Ⅱ期　CO・OP共済時代

①日本生協連職員時代
（2000年10月～2008年３月）

②コープ共済連職員時代
（2008年４月～2015年３月）

第Ⅲ期　生協総研時代

（2015年５月～2021年３月）

なぜ５０年間も生協とともに歩むことができたのか、その理由は次のつだと思います。

第１に、生協が扱っている商品、事業サービスそして様々な社会的活動は、**すべて自分の生活に関わっていた**ことです。本を安く買いたい、美味しい食事をしたいことから始り、環境や平和の問題、またライフプランニング活動も、自分の生活や生き方に関わっていることから、もっと知りたい、良くしたい、みんなと一緒に考えたい、という思いに繋がっていきました。

第２には、生協という場は、**自分の考えていることを自由に発言できる**ということです。特に、学生時代に生協でそれを体験できたことは、私自身の学びと成長、そして様々な人との出会いと交流に結び付いてきました。

第３には、**生協が非営利・協同の自発的な組織**だということです。株式会社のような組織にもし就職したら、おそらくここまで自由にまたストレスなく、やりたいことを追求し発言することはできなかったのではないかと思います。生協の活動のなかで様々な人と出会い交流できたのも、お互いに自発的に参加してきたからだと思います。

2. 退職後5か月間の生活

退職後の５か月間は生協総研の関係の仕事が少し続いており、以下の論稿を執筆しました。

①「コロナ禍と生協　―非常事態下の生協の役割を考える」『にじ』２０２１年秋号に掲載（発行元 日本協同組合連携機構，２０２１年９月発行）

新型コロナの感染拡大の中で人々（組合員）の生活がどのように変化し、地域生協がそれにどのように対応してきたかを振りかえり、非常事態の下での生活協同組合の役割について私の考察（問題提起）をまとめた。

②「人生１００年時代の新たな生活リスクに立ち向かう」『生協共済の未来へのチャレンジ』所収（発行元 東信堂，２０２１年７月刊）

人生１００年を自分らしく生きていくためには、「老後の生活資金の確保」と「健康寿命を延ばすこと」が不可欠になっている。そのために生協の共済に期待されることは何かを提起した。

③「生協共済研究会の15年の活動を振り返って　―研究活動の歩み、成果、今後の課題」（共同執筆），『生活協同組合研究』No. 548 に掲載（発行元 生協総合研究所，2021年９月発行）

私が生協総研（西村一郎さん）に提案して２００６年４月にスタートした生協共済研究会は、今年度で１６年目を迎えた。１５年間の活動を座長の岡田太教授（日本大学商学部）と共同で、「研

究活動の歩み、成果、今後の課題」について執筆した。

いずれもこれまで関わってきた生協、共済、生協共済研究会の活動と、新型コロナや人生１００年時代など現代の課題との関係を考察したものです。興味ある方は、お読みいただき、感想をお聞かせください。

3. 人生100年をめざして

私が「人生１００年」を意識するようになったのは、『LIFE SHIFT―１００年時代の人生戦略』（リンダ・グラットン他、2016年10月刊）を読んでからでした。今や日本人は普通に１００歳まで生きられる時代を迎えたんだと思うようになりました。生協総研在職中は生協共済研究会や公開研究会、『生活協同研究』誌の特集などでそれに関わるテーマを取り上げてきました。

私自身が人生１００歳をめざしてこれから何をするかということでは、一つには市民後見人の勉強を始めたところです。長寿化に伴い認知症の方がこれから増えていき、２０３０年には８千万人を超えると推計されています。認知症の人の生活を支えるものとして成年後見制度がありますが、現在は十分に活用されている状況ではありません。

そこで注目されているのが市民が自分の住んでいる地域で自発的に行う市民後見人という活動です。自分もいつかは認知症になるかもしれないということを考え、それに対して今自分ができることは何だろうかということから、市民後見人制度に目を向けました。今住んでいるふじみ野市の社会福祉協議会が主催している「市民後見人養成講座」を受講しているところです。その問題意識は、在職中に『生活協同組合研究』No. 541（2020年2月刊）で**「認知症高齢者の生活支援　―資産管理をめぐる課題と支援体制―」**という特集企画にまとめましたので、興味ある方はお読みください。

もう一つは、「老後の生活資金の確保」と「健康寿命を延ばすこと」です。老後の生活資金確保では、家計簿や資産管理・資産運用を１０年ほど前から行ってきました。健康維持では、毎日１０分の筋肉体操、ランニングやサイクリングなどを、ほぼ毎日継続して行っています。こうしたことが、健康寿命を延ばし自分のやりたいことをして生きていく上での基礎になると考えています。

友の会の皆さんも、きっと何か実際に取り組んでいることと思うので、ぜひ、交流したいと思います。

友の会会報への投稿、原稿募集中

会員のさまざまな交流をより広げ、強めるためにこの会報への寄稿をお願いします。

①定年退職後の近況や体験、日頃の生活など
②在職時の経験や思い出などをご紹介ください。今までも多くの会員に「あの頃のこと、いま思うこと」といったテーマで掲載しています。
③退職後、現役時代に苦楽を共にした仲間との交流（ＯＢ会という組織ではないけど集まった時の話など）
④その他なんでも　※「戦時・戦後体験談」も募集しています

◆字数：５００字～１６００字（応相談）できたら写真添付
◆送付先：会報１面にある住所（大学生協連）かＥ-Ｍａｉｌ

不明なことなどは今回選出された幹事にもご相談下さい

2021年新幹事・会計監査【敬称略】

伊野瀬十三（幹事長）・岡安喜三郎・馬場瑛・宮寺重男・薄葉康男・山崎実・倉橋潤・釜田春美・説田信義・藤村健司・柳ヶ瀬直人・塩谷昇・柴田信廣・中村泰之・平田真弓・茂垣薫（新任）・和久井洋一（新任）・齋藤淑人（新任）・大久保厚（事務局長）和知稔・古越小夜子（会計監査）

29期総会にて、川上邦博さん・有田祥子さん・隈部なおみさんの3名が退任いたしました。

大学生協の存続と応援にむけたご寄付の報告とお礼

本年４月より「東京ブロックへの応援募金」を呼びかけ、５月 14 日の中間報告以降も募金を継続しましたところ、７月末日現在以下の集計となりましたので報告いたします。ご協力に心から感謝いたします。

【今回集約ご報告】　**2021年5月15日～7月31日**
募金協力人数　38 名　　期間合計額　45 万 5 千円

お名前（敬称略、振込日付順）
長田春幸、堀江建実、倉方欣平、藤村健司、箭内努、山田始、岡本一朗、佐久間惇、野口孝、伊藤光男、瀧川潔、中久保武雄・米子、岡部民江、伊藤敏幸、小林敏男、阿部信夫、岡本恵、窪田力、松本進、伊藤隆志、小林正美、笠原貞雄、亀井隆、宮寺重男、坂口範昭、織壁哲夫・キク、菅野直樹、原田街子
隈部なおみ、江尻行広、山﨑三平、板倉洋子、菊池祐子、阿藤博、星野正思、本田月男

【募金累計】
募金協力人数　100 名　　合計額　146 万 5 千円　（目標金額　１００万円）
お寄せいただいたた貴重な募金は、東京ブロック、関西ブロック、指定会員生協それぞれに寄付いたします。

全国大学生協連奨学財団（たすけあい奨学制度）のお知らせ（再）

昨年７月の友の会総会にて上記「奨学制度」へのご寄付を呼びかけ、都合２回のお知らせの結果 30 名、288,899 円の寄付が寄せられました。（会報 29 号既報）
友の会としてはこの制度への応援を継続します。
PC、スマートフォンなどを利用してクレジットカードで寄付する方法が追加されましたのでご案内します。詳細は大学生協連のホームページからたすけあい奨学制度のページをご覧ください。スマートフォンの方は右の QR コードをご利用下さい。
https://www.univcoop.or.jp/syogakuzaidan/support/donation_flow01.html

２０２１年度第３回幹事会報告

開催日時：２０２１年７月３日（土）
１２：３０～
場所：大学生協杉並会館＋オンライン
出席：（リアル）伊野瀬、釜田、馬場、中村、説田、倉橋、柴田、大久保
（リモート）宮寺、柳ケ瀬、平田、藤村、川上、岡安、山崎
（会計監査）和知
欠席：古畑、薄葉、有田、隈部（会計監査）
古越　（敬称略）

報告事項
１）幹事近況報告
２）大学生協近況報告
３）会員及び他大学生協ＯＢ会の動き
４）事務局活動
４／１４・５／２７・７／３事務局会議
４／２５・５／３０　オンライン交流会
６／２３　会計監査
５）会員情報
現在の会員数：２６６名
６）２０２０年度会計監査について

協議事項
１）２０２１年総会議案
２）総会の当日運営
３）２０２１年会員親睦会
１２月４日（土）１４時から予定
４）２０２１年度第１回幹事会開催日時
１２月４日（土）１３時～
（詳細は後日案内）
以上協議確認した